



## 《金沢龍馬會 新年会》

日時：1月23日（木）18：00  
場所：「招龍亭」金沢市西念町  
金沢龍馬會新年会が金沢市西念町の中華レストラン「招龍亭」で開催されました。

参加者： 小屋/不破/蛭子/宇賀/中田俊/佐藤/守山  
吉田/油谷/勝田/中城/寺元/松岡/朝日/北川/小幡/  
折戸/中田文/谷/濱/池田/永崎/上田/新木/加藤/  
松下/森川 会友吉本/高田 計29名。

会長の蛭子政喜さんによる「龍馬を有名にした男？坂崎紫蘭」の講演がありました。

### 蛭子会長講演「龍馬を有名にした男？坂崎紫蘭」



紫蘭の略歴を紹介されましたが、教師、兵士、政党内、ジャーナリスト、小説家として多くの経験を積み、故郷の英雄としての龍馬を描いたことを説明されました。

### 蛭子会長

#### 親睦会

中田副会長の仕切りで親睦会を開始。新人を中心とした方々から発言がありましたが、いずれもしっかりした内容でした。

加藤氏からFIX研究会講演会の案内がありました。その後、待望の親睦会に入り中華料理と酒を堪能、大いに語り合いました。

そして本日の目玉であるビンゴ大会を行いました。景品は参加者の持ち寄りですが、1等2等は日展入選者中田副会長の「篆刻」が当たりました。字は当選者の要望に基づき刻みます。

皆さまが持参された景品数は参加者数より多く、いずれも立派なものでした。

皆さまのご協力で今年一年もよりよい龍馬会を開催することが出来そうです。

## 金沢龍馬會總會

日時：6月13日（土）15:00～18:00  
場所：桜はなび  
次第：15:00～ 総会  
15:30～ 講演会 松岡氏  
16:00～ 懇親会（焼肉）  
参加費：3,500円（酒持ち込み条件）  
+年会費3,000円

## 【会員のつぶやき】 “私と金沢龍馬會”

中田文江さん



私の金沢龍馬會入会の経緯についてちょっと書きますね。

皆さまご存じの周藤先生から「中田さん！金沢龍馬會って有るのです。ちょっと覗いて見ませんか？」と言われたのです。

歴史、特に明治維新に少し興味を持っていましたので「それ

じゃ一度参加しますよ」とお返事をしたのが始まりでした。

先日の令和最初の新年会は本当に愉しく皆様の新鮮なお話や澆刺した意義の有る懇談会にワクワクしました。

ついこの間京都へ行く機会があり、娘を誘って「龍馬～靈山歴史館」などを廻ってきました。

坂本龍馬、中岡慎太郎、西郷隆盛、木戸孝允、高杉晋作など倒幕派志士の遺品とともに、新選組、徳川慶喜、松平容保など幕府側に関する資料が多数あり、その多さにビックリしました。

つらい事があっても、幕末に活躍していた志士の事を思うと、もう少しがんばろうと思えるようになりました。いろいろな仕事をしてきた人、している人に会えるのも良い刺激となっています。

これからもいろいろなお話を聞けるのを楽しみにしています。

## まるわかり「龍馬と志士たち」④

### 志士たちが活躍した長崎とは

#### ～木戸孝允～

木戸孝允（桂小五郎）と龍馬の絡みは、どなたでもご存知の薩長同盟の一方の当事者である小五郎が薩摩を信用できず、龍馬に裏書を要求し、その文章が現在でも残っていることであろう。

多くの志士が殉死、又は病死する中で「逃げの小

五郎」と呼ばれ、幕末・維新を生き抜き、木戸孝允と名を変え、当初は長州の代表者という地位にあり多くの政策決定に参画した。

ところが岩倉使節団から帰国した後は健康上の問題もありあまり活動をせず、最期は西南戦争の西郷隆盛を心配しつつ大久保利通や愛妻幾松に看取られ享年45歳で京都にて亡くなった。

さて話は変わって長崎である。長崎奉行所は江戸幕府直属で行政・司法・外交・貿易・軍事全般とキリシタン・密貿易の取り締まりなど、多岐にわたる職責を担っていた。よって市中には西南雄藩が間役として武家屋敷を配置していた。

長州藩も例外なく屋敷があったが、幕府に逆らうものとして閉鎖させられていた。

ところで長崎には奉行所直属の武士が不在なので伝統的に長崎の海上警備は佐賀/小倉藩、陸上警備は大村藩が担っていた。

一方現在の長崎県に於ける幕藩体制時は島原藩を除き、平戸藩（松浦家）、対馬藩（宗家）、大村藩（大村家）、福江藩（五島家）、深堀/国見（佐賀鍋島支藩）と戦国時代から一貫して奉行所支配地域を取り囲んでいた。

ところがこれら藩の島々、岬や山中には隠れキリシタンがうようよと生き延び先祖代々生計を立てていた。

また何時の時代からか分らぬが薩摩藩は半ば公然とご法度の抜け荷（密輸）を行い長崎市中で中国商品を捌いていた。

さて幕末になると抜け荷ではないが薩長同盟のきっかけになったのはグラバー商会からユニオン号を薩摩藩の名義で桜島丸として購入し、龍馬の亀山社中経由、長州藩へ乙丑丸として譲渡したことである。

龍馬は慶応2年6月この軍艦で下関海戦に参加し輝かしい戦歴を上げている。

それはさておき小五郎は長州高杉晋作が同じくグラバー商会より購入していた丙寅丸を駆使し長崎近隣の各藩への工作を強めたことである。

薩摩藩主を訪ねた帰りに大村藩渡辺昇と共に謀し長崎奉行所をたぶらかし大胆にも禁止されていた長崎港に入港し、その帰りに大村藩領「松島」に寄港した。それが功を奏し慶応3年1月、大村騒動が勃発し、藩内の保守派を一掃し、藩論を「勤王討幕」で統一し薩長と協力体制を組むこととなった。

話はまた飛ぶが、平戸藩（松浦藩）は倭寇の一派とも呼ばれ、戦国時代に中国人倭寇王直を招請し鉄砲伝来を実現させた。

また鄭芝龍を住ませ日本人女性との間に国姓爺合戦で有名であり、大陸・台湾で民族英雄と呼ばれる鄭成功が誕生し、巣立った。

更にポルトガル、オランダ、イギリス商館を呼び寄せた藩でもある。この藩は常に革新的である。

幕末には藩主の娘が公家中山忠能に嫁ぎ、その娘が孝明天皇との間に生んだのが明治天皇である。当

然勤王である。小五郎の政治工作は不必要であったろう。

しかるべく左様に小五郎の政治工作もあり長崎奉行所は周囲を勤王藩に包囲されていた事になる。

参考資料:長崎新聞、Wikipedia

今日の松島「桜坂」 大村藩勤王三十七士の碑  
(長崎旅ネット) (大村市)

「続く」(記:吉田信夫)



新入会員 126番 森川典洋

## ●年会費納入のお願い

2020年4月から来年3月迄の年会費：  
¥3,000-

例会ご出席の折か次の口座まで送金下さい。

郵便局 口座No. 00780-5-38627

口座名義 金沢龍馬会

振込手数料は龍馬会が負担。3千円のみです

## 【編集後記】

皆さま、今年も宜しくお祈いします。心の中に常に“龍馬の志し”を持ち張り切ってまいりましょう。会報も第23号が完成、漸く皆さまにお届けすることが出来ました。

\*\*\*\*\* 事務局\*\*\*\*\*

## 金沢龍馬会

会長: 蛭子政喜

事務局長: 吉田信夫

080-5600-1113

[jitianxinfu@hotmail.com](mailto:jitianxinfu@hotmail.com)

会報担当: 中田俊郎 090-7806-2269

[n-toshio@muji.biglobe.ne.jp](mailto:n-toshio@muji.biglobe.ne.jp)

## 金沢龍馬会 公式ホームページ

<http://kanazawa-ryomakai.com/>

金沢龍馬会 facebook

<https://www.facebook.com/kanazawa.ryomakai?sk=wall&filter=2>

